中秋賞月

中秋歩月鴨川涯
十有餘回不在家
自笑東西萍水客
明年何處賞光華

中秋月を賞す

中秋月に歩す鴨川の涯
十有余回家に在らず
自から笑う東西萍水の客
明年何れの処にか光華を賞せむ

（口語訳） 中秋の名月を仰ぎ見ながら鴨川（賀茂川）のほとりを歩いているが、思えば名月を家で見ないのは十回以上、西に東にさすらう浮草のような身の上を自分で笑ってしまう。来年は一体どこで名月の光を賞美することであろうか。

示外甥政直

一貫唯唯諾
従來鐵石肝
貧居生傑士
勲業顯多難
耐雪梅花麗
經霜楓葉丹
如能識天意
豈敢自謀安

外甥政直に示す

一貫唯々の諾
従来鉄石の肝
貧居傑士を生じ
勲業多難に顕わる
雪に耐えて梅花麗しく
霜を経て楓葉丹し
如し能く天意を識らば
豈敢えて自から安きを謀らむや

（口語訳） 一旦心に許したことはどこまでも貫き通し、これまでの鉄や石のように堅い精神を持ちつづけよ。貧乏な家にすぐれた人物が生まれ、手柄は多くの苦難を経た後、世にあらわれる。
梅の花は雪のきびしさに耐えぬいて美しく、かえでの葉は霜の厳しさにふれた後、真赤にもみじする。もし、そのように自然の理を理解できたら、どうして強いて自分で安楽になろうとすることがあろうか。そんなことしなくてよい。